



認知症サポーターを育てよう ～認知症にやさしい地域を目指して～



近年の医療は目覚ましい発展を遂げ、日本の平均寿命は83.7歳で世界第1位となっています。長生きする事は良い事ですが、ある病気が増えてきています。そう、その病気とは「認知症」です。今から30年ほど前までは高齢者のうち15人に1人が認知症でした。しかし、2012年の調査では7人に1人が認知症となり、2倍になっています。さらに、将来推計では10年後に認知症予備軍も含めて5人に1人が認知症になるといわれています。少し前までは他人事であった

ことが、自分や家族の身近に迫ってきているのです。

「認知症になると治らないという」イメージがありませんか？ 確かに、「アルツハイマー型認知症」と呼ばれる多くの認知症は、現在でも治すことができません。しかし、薬を内服することや生活を工夫することで、進行を防ぐことが可能とされています。さらに、認知症の中には、ホルモン異常や脳内の異常を治療することで、完全に元に戻る認知症もあるのです。

認知症を治療・予防することができると書きましたが、注意点があります。どちらも病状が進行してしまうと完治しないことがある点です。そこで重要なのが早期発見です。では、誰がどのように早期発見すればよいのでしょうか。病院に受診したときに、医師が診察し発見できるのでしょうか。実は医師が発見できるのは少し病状が進行してからになります。早期の場合は、ちょっとした会話は上手く合わせることでできてしまうため、診察時には分からないことがほとんどです。そこで重要なのが、患者本人とその家族、そしてご近所の方です。何か変だなと思った時はすぐにご相談ください。

何か変だな？ が分からないという方へ知っていただきたいものがあります。国で行っている認知症対策の中に、認知症サポーターの養成というものがあります。医療者ではない一般の方に認知症を学んでいただき、認知症の方の早期発見や生活のサポートをしていただくというものです。佐井村でも講習会を開いていますので、ぜひ、ご興味のある方は、大間病院や佐井村地域包括支援センターなどにご相談ください。みなさんで北通り地域を、認知症サポーターがたくさんいる認知症にやさしい地域にしませんか？

